

【令和4年度第1回児童福祉審議会議事報告について】

【開催日】令和4年9月14日（水）

※全委員の意見に対する承認を集約した日を以って開催日とする。

【開催方法】書面開催

【出席委員】14名（回答書により返信）

会長 吉川 博文 副会長 永塚 博之

宮澤 浩二 細田 義和 長林 美穂 日山 秀利

米倉 裕子 庄司 正樹 薮島 麻弓 高橋 博美

春沢 典子 松山 由紀 伊藤 愛美 武藤 亜津子

【公開方法】戸田市ホームページにて報告内容を議事録として公開

【議事案件】

議題1 第二期戸田市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しの実施の要否について

【報告案件】

報告1 医療的ケア児の受入について

報告2 学童保育室の待機児童数（令和4年4月1日現在）について

令和4年度第1回児童福祉審議会（書面開催）議事案件について、下記のとおり報告します。

議題1 第二期戸田市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しの実施の要否について（資料1・資料2）

【意見】

【意見1】

ほとんどが10%以上の乖離なので、本来であれば中間見直しであるが、乖離原因が新型コロナウイルス感染症の影響と思われるので、令和5年度以降の見直しでもよいのではないかと。

【意見2】

コロナ感染症の一日も早い収束と新しい対応により、サービスがもっとスピーディかつ利用できやすくなることを望んでいる。

【意見3】

資料を見たところでは、乖離の大きい事業が多く、見直しの必要があると思われる。但し、コロナの影響もあるので、慎重な検討が必要。

【意見4】

予測の数字の差は想定されているものであろうし、その差がどのように政策に影響するものか判らないので、見直し「要」とは言えない。

【意見5】

3号認定（0歳児）の乖離率が70%台となっている。認可保育所の委託費の算定基礎となっている公定価格は、各年齢に保育単価が設定されており、その中でも0歳児が公定価格上一番高い保育単価となっている。乖離率が70%台ということは、それだけ施設の収入が下がっていることといえる。施設収入が下がるということは、処遇が下がり、それは保育の質の低下に繋がりがかねない。見直しを図るなかで、0歳児の入所率が低い施設に対して、新たな施策をするなど見直しを検討すべきと考える。

延長保育事業については、新型コロナウイルス感染症により利用者数が減少し、乖離率が令和3年度は56.9%となっている。しかしながら延長保育利用者がいないわけではなく、そのための人員配置も各施設行っている。事業の見直しや補助金についても現行の制度も踏まえ、柔軟に対応すべきと考える。

【意見6】

現在、保育園の量の提供が当初の計画と10%の乖離があるとの結果となり一見すると

戸田市の保育園の供給について十分に満たしている結果のようだが、数字の上では確かに満たしているが地域性を加味した場合に利便性等の関係上希望園が偏っており、これにより駅から遠い園に空きがあるにも関わらず入園保留となる場合が発生することが予想される。小規模保育園はその特性上ほとんどの園がワンフロアにて保育を行っており1・2歳児の定員の流動化また0歳児を1・2歳児へ移行する等の対応が適宜可能と思われる。また市内保育園の供給の多様化により3歳児以降の受け入れも十分に確保できていると言える。現在の小規模園の年度途中の定員変更の要件を簡略化し、毎月毎流動的に園児を受け入れることで保育の供給量過多にも関わらず待機児童が発生するということが軽減されると考えられ子育ての町戸田市としての十分に効果を期待できると思われる。

【意見7】

施設の整備に関しては、0歳児の減少を1・2歳児で補っている感がある。0歳児がより減少するようであれば、見直した方が良いと思われる。(4年度の0歳児は5・6年度に1・2歳児になる訳で、0～2歳児の利用率の乖離が大きくなるのではないかと)

他のいずれの事業に於いては、新型コロナウイルス感染症による影響が濃く出ているので、緩やかな見直しで対処していかれればと思う。

【意見8】

新型コロナウイルス感染症等の流行による影響を大きく受けた項目については、令和5年度以降に見直し実施としても良いと考える。

【意見9】

コロナによるマイナスと認められる。あえて修正する必要はないのではないかと。

【意見10】

原因の一つとして、コロナの影響も考えられるので、来年度以降でもよいのではないかと。

【意見11】

コロナの影響もあるが、計画初年度の数値が大きく予測と違っているため、次期計画への連続性等考えると見直しする必要があると思う。

【意見12】

「1.幼児期の教育・保育施設」についてはコロナ禍に関係なく産後の保育者の就業率が高いことから、幼稚園利用(減少)についての見直し、保育園利用(増加)の見直し

を必要とし、立地や条件など詳しく精査していく必要があると考える。

【意見13】

新型コロナウイルス感染症の流行等の影響により、事業が充分に行えなかったことによって、本来受けられる行政サービスを受けられなかった子育て世帯が数多く存在している。事業計画の中間見直しについて、過去の実績が参考にならず、又先の見通しも読めず、ご担当者様のご負担も増していることかと思うが、事業担当課様だけでなく戸田市全体で子育て支援事業に柔軟な対応を行っていただくことを期待する。

報告1 医療的ケア児の受入について（資料3・資料3-2）

【意見】

【意見1】

十分な安全性の確保をお願いしたい。

【意見2】

医療的ケア児の受け入れは必要だと考えるが、実際の保育現場での保育士への精神的また肉体的な負担及び人員の確保による安定的供給が懸念されると思う。対策として現在保育士確保の政策を行っているが、その一環である宿舍借上げ制度の期間延長をお願いしたいと思う（さいたま市、川口市、蕨市他ではすでに取り組みされている）。加えて保育支援員の有効活用も検討出来れば少しでも現場の負担軽減に繋がりケア児の受け入れを円滑に進めることが可能になると思う。

【意見3】

良い方向だと思う。

【意見4】

保育園は保護者の就労保障のため、長時間保育に加えて、特別な支援を必要とする障がい児、さらに医療的ケア児の受け入れ等、以前に増して保育者にとっても、子どもにとっても負担は増しているように思う。

【意見5】

①現状、どれくらいの受入れ実績があるのか知りたい。

②、③市民の理解、知識を深めるためにも今後も積極的に取り組みについて周知したり、子育てアドバイザーやファミサポ、子育て世代など広くに学びの機会を増やしていただけると、出産、子育ての不安の軽減にもつながると考えた。

報告2 学童保育室の待機児童数（令和4年4月1日現在）について（資料4）

【意見】

【意見1】

学童保育に関して公立学童の定員が平成26年度1225人から令和4年度1299人の増員に対し民間学童の定員は平成26年度178人であったのが、令和4年度には936人と大幅に増加している様なので今後は公立学童・民間学童の方の意見も伺えるように児童福祉審議会へのご参加を願えればと思う。

【意見2】

民間学童保育室の質を確認（チェック）しつつ、公立学童保育室も増員できていければと思う。

【意見3】

民間学童の認可を増やし待機児童数の解消に向け尽力されていることがわかる。令和4年度、一気に増えたことが気になる（R1：18→R2：13→R3:3と減ってきた）戸南小・芦原小学区に少ないのか。

民間学童への「指導（体罰・暴言の禁止、コロナ対応等）」を十分に行ってほしい。

【意見4】

待機児童の解消は、本市においては困難な課題だが、学童を希望する子が安全な居場所を失うことのないよう拡充をお願いしたい。

【意見5】

本年度待機となっている児童に対しての対処は適切な策に感じた。